

公衆衛生医師としての 歩みと新しい出

自分に甘い性格と長期にわたる新型コロナウイルス感染症対応という環境要因が重なった影響で、健診での異常値も表れ始めました。自己管理の難しさを実感するとともに職域保健の重要性も改めて認識させられています。若手とはいえない年齢になりましたが、これまでの歩みと印象に残っていることを自由に書かせていただきます。

公衆衛生医師になるまで

医師の進路としては非常にマイナーなため、「なぜ公衆衛生の世界に入ったの？」とよく聞かれますが、何か特別なきっかけがあったわけではありません。ただ平凡な大学生活を送っている中で、公衆衛生医師という道があることを知り、自分なりに少し調べてみたり、大学の講義で公衆衛生医師として活躍されている先生方から話を聞いたり、保健所に見学に行ったりする中で、個別の患者を診ながら専門性を高めていく臨床よりもマクロな視点で地域住民の健康と安

全を守るという公衆衛生の幅広い世界に興味を湧き、自分の性にも合っていると自然に感じるようになりました。珍しがられましたが、学生時代に将来は公衆衛生の世界で仕事をしてみたいと思うようになり、周囲にもそれを公言していました。

そうはいつでも基礎的な臨床能力は身に付けておきたいと思い、大学卒業後は「将来は公衆衛生の道に進みたい」という思いも伝えたくて大学病院の内科医局に在籍させてもらいました。多忙であったという間に3年間が過ぎ、内科の中でどの専門領域に進むか決断し

衛生な環境で鳥をさばっている労働者の姿を垣間見ました。文化を尊重しつつも、公衆衛生課題としての取り組みが必要だと感じました。

このような貴重な経験もさせていただきながら充実した毎日を過ごしていたある日、当時公衆衛生医師不足でもあった佐賀県からお声掛けいただきました。長年お世話になった福岡県を離れるに当たり心の葛藤がありました。そんな中、佐賀県から車通勤を続けていたという事情もあり、27年度から佐賀県で勤務させていただくこととなり現在に至ります。

豪雨災害対応の経験

近年、全国各地で自然災害が頻発していますが、私自身も令和元年の佐賀豪雨災害で自保健所管内の市町が被災してしまい、現地保健医療調整本部長という立場で県本部と連携しての対応を経験しました。幸い平時のDHEAT研修等で、本部の立ち上げ、調整会議の開催等のイメージだけはできていたので地元医師会・管内市町・県内外からの多くの支援チームと

なければならぬタイミングで、

かなり悩みましたが臨床を一度離れる決意をし、大学院(社会医学講座予防医学分野)に進むことにしました。臨床医としての毎日も充実していたため、このようなタイミングがなければ、流れに任せて今でも臨床を続けていたのではないかと思っています。大学院に進んだのは、研究に興味があったというよりは、「公衆衛生について勉強する時間をつくり、ゆっくり将来について考えてみたい」というのが正直な気持ちでした。大学院時代は、幾つかの疫学研究に携わらせていただくとともに、市の保健師やボランティアの健康推進員と一緒に活動させていただく機会もあり、地域住民が健康になるための街づくりの一端も体感することができました。そういった経験もさせていただく中で、一度行政の公衆衛生医師として働いてみ

ようと決断しました。

公衆衛生医師になって

当時、佐賀県では若手医師の採用は難しいとのこと、縁あって(大学の先輩からお声掛けいただき)隣県の福岡県に入職させていただきました。「やりたいことだけをやれば良い世界とは違う。すぐに辞めてしまいう人も多い」という話も聞き、少々緊張しつつ一係員として保健所勤務がスタートしましたが、保健所長のサポートの下、時に難題にぶつかったときなども同僚とのチームプレーで何とか乗り越えることができました。特に、福岡県は一保健所複数医師体制であり、モデルとなる保健所長の指導の下で幅広い業務に関わらせていただけたことは本当に恵まれた環境であったと感じていますし、これが全国標準になってほしいと今も願っています。福岡県

の新型コロナウイルス感染症対応は、終わりの見通せない長期戦となっており、職員の身体的・精神的健康をも脅かす状況が続いています。なかなか気の晴れない毎日が続いていますが、職員の健康保持に留意しつつ、「経験が人を成長させてくれる」という言葉を胸に、何とか乗り切っていければと思います。そして、今回の経験を契機に、同様な長期化する健康危機管理事象が発生したとしても必要な保健所機能を可能な限り維持し、職員が健康に業務を継続できるような体制強化が進むことを切に願っています。

最後になりますが、未熟な私を温かく育ててくださった福岡県の皆さま、佐賀豪雨災害で支援に入っていたいただいたDHEATの皆さまをはじめ、これまでお世話になったすべての関係者の方々へこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

令和5年が読者の皆さま方にとっていい年になりますように。

おわりに

大切な保健事業を縮小しながら



佐賀県佐賀中部保健福祉事務所
保健監

坂本 龍彦

平成12年佐賀医科大学医学部卒業後、同大附属病院(研修医)・県内医療機関に勤務。19年佐賀大学医学部大学院医学研究科(社会医学講座予防医学分野)修了後、福岡県入庁。保健所・衛生研究所等での勤務を経て、27年4月佐賀県入庁。令和4年4月より現職。